



子ども・若者が もっと輝けるまちへ

【担当課】 子ども応援課 ☎5654 - 8578



●●●● 葛飾区子ども・若者に関する調査がまとまりました ●●●●

区では、子ども・若者世代(0~39歳)の生活状況などを把握するため、アンケート調査を実施しました。調査結果報告書は区ホームページ(トップ→区政情報→計画・報告→子育て・教育)からご覧になれます。
【調査対象】 本人/小学5年生、中学2年生、高校2年生、若者(18~39歳)
保護者/未就学児、小学2年生、小学5年生、中学2年生、高校2年生



子ども

家族に対する気持ち

「家族に大切にされている」が
いずれの世代も約9割!

小学5年生、中学2年生、高校2年生いずれも「とてもそう思う」、「そう思う」が約9割。

また、子どもとの会話についての質問は、いずれの世代の保護者も「よく会話している」が7割を超える。



子ども

自分に対する気持ち

「自分の将来が楽しみだ」は
小学5年生が約8割!

「とてもそう思う」、「そう思う」と回答した人は、小学5年生が77.7%。中学2年生(68.7%)、高校2年生(59.6%)と学年が上がるにつれて減少。

子ども・保護者 場所の需要

「運動や工作などの活動が
できる場所/体を動かしたり、
趣味の活動ができる場所」が人気

子どもが使いたい、保護者が使わせたい場所はいずれの年代も「運動や工作などの活動ができる場所/体を動かしたり、趣味の活動ができる場所」が1位で、子どもと保護者の需要が一致。

高校2年生は「家で勉強できないときに、静かに勉強できる場所」が僅差で2位。



保護者

現在の不安

中学2年生、高校2年生の保護者で
「子どもの就学・進学」が5割を超える

子育てやいまの暮らしのなかで悩みや不安に感じることには中学2年生、高校2年生の保護者で「子どもの就学・進学」が5割を超える。

また、未就学児の保護者は「子どもの学力・意欲」が1位。



保護者

支援の需要

「進学のための
経済的支援」が約5割

子どもが暮らしやすく、よりよい生活を送れるようになるために必要な取り組みとしては、いずれの世代の保護者も約5割が「進学のための経済的支援」。

未就学児・小学2年生の保護者は「非行や犯罪を防ぐためのまちづくり」が5割を超える。

若者

必要だった と思う支援

「進学のための
経済的支援」
(38.3%)が1位

2位は「文化芸術、自然等を体験する機会の提供」(32.6%)、3位は「家庭や学校以外で放課後や休日に過ごせる居場所の提供」(31.5%)。

また、過去に困難を経験した若者のうち、不登校・学校の中途退学を経験した人は「進学のための経済的支援」、ひきこもりや、学級・職場への不適応を経験した人は「不安や悩みを気軽に相談できる窓口の整備」が1位。



若者

相談したいと思う先

求められているのは
3つの要件

現在の悩みや不安を相談したい場所は「専門家がアドバイスをくれる」、「自分の名前を知られずに相談できる」、「同じ悩みを持つ人と出会える」がいずれも3割を超える。

「葛飾区子ども・若者計画」を策定します

「葛飾区子ども・若者計画」とは、子ども・若者育成支援推進法に基づき、区内の子ども・若者世代(0~39歳)と、その家族への総合的な切れ目のない支援について、区の取り組みを明確にするものです。

区では、今回の調査結果を踏まえて、子ども・若者の世代別の支援、不登校やひきこもりなど、さまざまな課題別の支援を盛り込んだ「葛飾区子ども・若者計画」を平成30年度中に策定予定です。

